



出席者：藤原(営業)
長尾(人事)
帯津(開発)
鈴木(開発)

世界は大きな変革を経験し、社会の在り方を模索する日々が続いています。社会に必要とされる企業であり続けるために当社も、新たな変革が求められています。

CSR活動を通じて新たな事業の進展に結び付けていくために、社内ダイアログを開催しました。

当日は、入社数年を経た従業員4名が集まり、それぞれの業務との関連を踏まえ、当社にとっての社会貢献や海外展開している地域での在り方や、そこで求められる製薬企業の役割などについて積極的な意見交換を行いました。

また、管理職によるダイアログも開催し、社内における意識向上も図りました。

司会:CSR活動について、どう考えていますか？

帯津:CSR活動は、できる事を一つひとつ積み重ねていくことが大事だと思います。また、説明責任といった意味でも会社からステークホルダーに対して積極的な情報を発信すべきだと思います。

長尾:CSR活動は、事業活動全てに関わるもので

ので、社員全員がCSRの考え方を理解することが大事だと思います。

鈴木:従業員一人ではできないことでも組織としてなら社会に果たせる役割があるのではないかと思います。事業にかかわる分野で環境負荷を低減することも重要だと思います。

藤原:あらためてCSRの広さ・深さを感じています。広義のコンプライアンスが前提となるのは言うまでもありませんが、活動の結果が「企業ブランド」の向上につながると感じています。

司会:医薬を通じての社会貢献という面ではどうですか？

鈴木:患者さま・医療関係者の満足度に対して敏感に対応することが第一かと思っています。そうすることで、結果として社会に貢献できるのが医薬の特長ではないでしょうか。



鈴木

長尾:私も「患者さんの視点」から考える必要があると思います。命にもかかわるものですから品質、安全性が重要です。

帯津:薬などについては、一般の方は分からないことも多いと思います。しっかりと情報を開示することも社会貢献だと思います。



帯津

藤原:医薬に関しては、患者さまからの信頼が大前提になっているのではないのでしょうか。そのためには、薬に関することだけでなく、企業にかかわる情報開示も重要だと思います。

鈴木:外部から高い倫理性を求められるのも医薬の特長ではないかと思っています。

長尾:研究開発や生産の現場では、高い倫理感を感じますが、MRの倫理性についてはさらに議論が必要かと思っています。

司会:久光製薬に求められていること、期待されていることはどういったことだと思いますか？

藤原:東京マラソンなどのアンケートを見ると久光製薬とスポーツの関係は強く認識されていま



藤原

す。学校をはじめスポーツの現場では、多くの課題もあると思っていますので、そういった方面においても一層の取り組みを進められればと思っています。

長尾:スポーツと同時に高齢者のニーズも多いのではないのでしょうか。震災後に体操を勧めるコマーシャルを東北で流しましたが、高齢者に対する訴求も考えられるのではないでしょ

うか。

帯津:サロンパスは知っているが当社を知らないという人も多いと思います。同様に、外用薬のより良い使い方などについては、知られていないことも多いのではないのでしょうか。それぞれの商品の長を生かし、適切な使用でQOLの向上が図れることをお伝えすることも重要だと思います。

鈴木:TDDSの有効性について社会に広めることは当社に与えられた大きな責任ではないでしょうか。そのために、「薬育」活動を推進していくことも重要だと思います。

司会:地球温暖化など、環境問題への取り組みについてはどうですか？

鈴木:自分たちの将来を考えると、必要なエネルギーは自社で創るくらいの発想の転換が必要だと思います。「自分一人が取り組んでも変わらない」といった意識から、他がやらなくても自分は率先して取り組むといった気概も必要だと思います。

帯津:私も現在の日本の状況や新興国のことを考えると、抜本的な取り組みが必要な段階に来ているのかなと感じています。

藤原:当社の商品を考えても、金属、プラスチック、紙など多くの資源を利用しています。現状を考えればそれらの資源を大切に利用したり、再生可能な材料に変更するなど早急に取り組む必要もあるのではないのでしょうか。

長尾:商品の長を考えながら当社ならではの取り組みも必要だと思います。身近な商品だからこそ環境にも良い影響を与えられるのではないのでしょうか。



長尾